

平成 22 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19530149

研究課題名 (和文) 双方向の国際資金循環の決定メカニズムについて

研究課題名 (英文) On the determination mechanism of bilateral flow of funds among countries

研究代表者

齊藤 誠 (SAITO MAKOTO)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：10273426

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：マクロ経済学

1. 研究計画の概要

本研究では、国際金融モデルを活用しながら、双方向の資金循環が生じるような状況を考察するとともに、その資金循環が資源やリスク、とりわけカタストロフィックなリスクの配分にもたらす効果を分析している。特に、相手国に対する債権と債務から成る両建ての対外ポートフォリオ、すなわち、レバレッジをかけて資産を構築するポートフォリオが持つ経済学的な効果を明らかにしている。

国際間で取引されている金融資産（国際的流動性）が担保として必要となってくる場合に、自然災害や疫病、あるいは、テロなどのカタストロフィックなリスクが国際間でどこまでリスクシェアリングできるのかを理論的に分析してきた。そこで得られた主要な結果は、担保制約があるにもかかわらず、2国間で双方向の活発な資金取引を行うことによって、両国のバランスシートが拡大するとともに、担保にできる国際的流動性が内生的に拡大し、カタストロフィックリスクを円滑にシェアリングできることを明らかにしている。

また、個々の経済主体にとってカタストロフィックなリスクのシェアリングについては、国際間ばかりでなく、世代間や国内の経済主体間でのリスク配分についても理論的、実証的に分析を進める。

2. 研究の進捗状況

(1) 各国に固有なマクロ的実物ショック（景気循環リスク）は、実物ショックを直接的にシェアリングするグローバルな保険市場が存在しなくても、複数の通貨のポートフォリオによって国際間でリスクシェアリングを

することができることを示した。具体的には、それぞれの国が、自国通貨で資金を調達し（ショートし）、外国通貨で資金を運用する（ロングする）両建ての対外ポートフォリオを構築することによって、かなりの程度リスクシェアリングを達成することができる。

(2) 各国に固有なカタストロフィックなリスクは、巨大リスクを事前に保険するグローバルな再保険市場が存在しなくても、リスクが顕在化したのちに複数の国の間で異なる状態請求権に関してショートとロングの両建て対外ポートフォリオを構築すると、カタストロフィックなリスクは、事後的な取引でほぼ完全にリスクシェアリングできることを示した。

(3) 個々の経済主体にとってカタストロフィックなリスクは、国際間のシェアリングとともに、世代間や異なる経済主体間での分担について以下のような理論的、実証的分析をした。

①地震リスクと地価や家賃の関係を実証的に分析することによって、地震リスクは不動産価格にほぼ織り込まれていることを明らかにした。

②家計のマイクロデータを用いた実証分析によって、要介護者が生じるリスクが顕在化すると、その世帯の生涯所得が大きく引きさがることを明らかにするとともに、介護保険がそうしたリスクをかなりの程度吸収していることを示した。

③労働参入時に生涯所得の顕著な減少の形で若年世代が被る損失は、金融資産の取引を通じて中・高年世代や将来世代とある程度リスクシェアリングできることを理論的に明らかにした。

3. 現在までの達成度

②研究は、おおむね順調に進展している。項目2の(3)については、ほとんどの研究を英文査読雑誌に公刊することができた。項目2の(1)と(2)についても、論文の作成を終えて査読雑誌に投稿中である。

4. 今後の研究の推進方策

項目2の(1)と(2)については、英文査読雑誌において2つの論文の採択を目標として研究を推進していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

1. "On the consumption insurance effects of long-term care insurance in Japan: Evidence from micro household data," Y. Iwamoto, M. Kohara, and M. Saito, *Journal of The Japanese and International Economies* 24:1 (2010), 99-115. 査読有り.
2. "On the intergenerational sharing of cohort-specific shocks on permanent income," K. Miyazaki, M. Saito, and T. Yamada, *Macroeconomic Dynamics* 14:1 (2010), 93-118. 査読有り.
3. "Incomplete financial markets, irreversibility of investment, and fiscal and monetary policy instruments," K. Miyazaki, K. Nishimura, and M. Saito, *Japanese Economic Review* 60:3 (2009), 271-300. 査読有り.
4. "Earthquake risks and land prices: Evidence from the Tokyo Metropolitan Area," M. Nakagawa, M. Saito, and H. Yamaga, *Japanese Economic Review* 60:2 (2009), 208-222. 査読有り.
5. "Risk premiums versus liquidity premiums: A simple numerical example," K. Miyazaki, and M. Saito, *The B.E. Journal of Theoretical Economics* 9:1 (2009), Topics, Article 7. 査読

有り.

6. "Earthquake risks and housing rents: Evidence from the Tokyo Metropolitan Area," M. Nakagawa, M. Saito, and H. Yamaga, *Regional Science and Urban Economics* 37:1 (2007), 87-99. 査読有り.

[その他]

ホームページ

<http://www.econ.hit-u.ac.jp/~makoto/>